

## 4-追加 法人の決算と申告

会計年度が終了すると、「いくら利益があったのか。」を明確にするため、決算書類を作成します。また、「いくら法人税を納めるのか。」を計算し、法人税の申告を行います。

### 1 法人の決算書類

法人税の決算書類の主なものをまとめました。これらの書類を見ることで、どんな内容が把握できるのかを確認してください。

<法人の決算書類>

損益計算書	一会計期間における売上高や経常利益などの企業の経営成績を示している。
貸借対照表	企業の一時点における財政（財産）状態を示している。
株主資本等変動計算書	貸借対照表の「純資産の部」のうち、株主資本の各項目の一会計期間における変動内容を示している。
キャッシュフロー計算書	一会計期間における企業の資金の増減（お金の流れ）を示している。なお、「営業」「投資」「財務」活動の3つの区分があり、たとえば、借入により資金調達した場合は、「財務活動によるキャッシュフロー」に反映される。

### 2 法人税の申告

法人は、所轄税務署長に対して、原則、事業年度終了の日の翌日から **2 カ月以内** に法人税の申告書を提出する必要があり、これには、前述の損益計算書や貸借対照表なども添付します。

申告書類でよく出題されるのは、「法人税申告書別表四」の内容です。これは、企業の利益を計算するために行った決算の当期純利益（または当期純損失）に法人税法に規定する加算または減算を行い、法人税法上の所得金額（または欠損金額）を算出するための書類です。4-14節②の学習において「収益≠益金」、「費用≠損金」を学びました。損金不算入の金額があれば、決算の当期純利益の金額に加算され、所得金額が増えることとなります。こういった調整をこの書類で行います。

### 3 財務の健全性

企業の財務面の健全性を示す各種指標があります

<財務指標>

自己資本比率	「自己資本÷総資本」 この比率が高いほど健全。
当座比率	「当座資産÷流動負債」 この比率が高いほど健全。 当座資産とは、現預金や売掛金など流動性の高い資産をいう。
固定比率	「固定資産÷自己資本」 この比率が低いほど健全。
売上債権回転期間	「売上債権÷売上」 この期間が短いほど経営効率がよい。

#### 練習問題(○×問題)

- ① 金融機関からの借入れによる資金調達は、キャッシュフロー計算書のうち、「財務活動によるキャッシュフロー」に反映される。

解答 .....

- ① ○ 「財務活動」のほか「営業活動」、「投資活動」によるキャッシュフローがあります。

#### 過去問徹底解説

##### ■ 問題1

(2011 年 1 月学科 問題 40)

企業の決算書および法人税の申告書に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 貸借対照表は、企業の一定時点の財政状態を示したものである。
2. 損益計算書は、企業の一会計期間における資金の調達源泉と用途を示したものである。
3. キャッシュフロー計算書は、一会計期間における企業の資金の増減を示したものである。
4. 法人税法上の所得金額は、確定した決算に基づく会計上の利益をもとに、申告調整を行い計算される。

##### ■ 解説

1. 適切: その通り。企業の一時点における財政(財産)状態を示しています。
2. 不適切: 一会計期間の売上高や経常利益などの企業の経営成績を示しています。
3. 適切: その通り。一会計期間における企業の資金の増減(お金の流れ)を示します。
4. 適切: 「法人税申告書別表四」で行う調整の説明になっています。

##### ■ 解答 2